

“ネパールの彼ら”から “世界の私たち”を目指して

実践教科：英語・総合（国際）
対象学年：中学2年 中学3年 対象人数：280名 35名

岡山市立
京山中学校

竹島 潤

●担当教科●
英語科

実践の目的

- ・ネパールの子どもたちや学校の現状を通して、世界のさまざまな途上国における子どもたちや学校の現状に関心をもつ。
- ・ネパールの自然や文化、現地での青年海外協力隊の活動を知り、世界のさまざまな文化や国際貢献に対する関心を高める。

授業の構成

| 時限 | テーマ・ねらい | 方法・内容 | 使用教材 |
|------------|---|--|--|
| 1 全校 | ネパール展 —ネパールの展示物や写真を通してネパールに興味を持つ（全校の希望者） | <ul style="list-style-type: none">・第一弾：9月初旬に企画展「ネパール展」として図書館で開催・第二弾：9月末～10月中旬に自由参観日、文化発表会の展示「私の愛したネパール」として2年展示コーナーで開催 | 写真データ、ネパール国旗、地図、教科書ほか |
| 2 2年・3年 | ネパールの彼ら、日本の私たち —アンケート用紙への回答や写真、一日の過ごし方を通して、“ネパールの彼ら”と“日本の私たち”との相違点を考える | <ul style="list-style-type: none">・2～3年生で担当している英語科授業で実施・ネパールの位置や言語、国旗など概要を説明・インタビューを通して、ネパールの子ども達と日本の私たちの相違点をペアまたはグループで話し合い・ネパールの子ども達や学校に関連した写真を用いたフォトランゲージ | CD「レッサンフィリ」 ネパール国旗 アンケート回答 資料1 ワークシート 資料2 写真（A4サイズ、ラミネート加工したもの） 付箋 学習指導案 資料3 |
| 3 2年 | レヌカの学び（ワークショップ） —自分の中にある思い込みや偏見に気づき、異文化理解に必要なことは何か考える | <ul style="list-style-type: none">・色丸シールをティカにみたててグループ分け・各グループでレヌカさんのコメントを滞日本時か滞ネパール時のものかを意見交換してグループ分けする・その根拠や考えを共有 | レヌカカード ワークシート 色丸シール（6色） 学習指導案 資料4 |
| 4 2年 | 世界がもし32人の村だったら（ワークショップ） —世界の多様性と貧富の格差に気づき、日本の私たちが世界でどういう位置づけにあるか知る | <ul style="list-style-type: none">・クラスサイズで担任がファシリテーター役で「世界がもし100人の村だったら」を実施・世界の人口に関するクイズ・役割カードで男女別、挨拶、地域で分かれる | 役割カード シガーフライ（菓子） 紙コップ ひも |

| | | | |
|--------------|--|---|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・シガーフライ（地元の菓子）を使った富の分配 ・世界の貧富の格差について意見交換 | |
| 5 2年 | 学校に行けない世界の子どもたち —JICA（日本）が世界の諸問題を解決するべく貢献していくことを知り日本の現状が決して当たり前でないことに気づく | <ul style="list-style-type: none"> ・JICAの活動DVDを視聴し世界にはさまざまな問題があることを理解する ・特に子ども達にとって「学校に行けない」現実があることを知る ・なぜ学校に行けないのか 学校に行けないと何が困るのかなどをグループで討議 ・ポスターを使っての発表 ・JICA資料を熟読し感想を書く | DVD「JICAは世界とともに」 資料「学校に行けない世界の子どもたち」ワークシート |
| 6 7 2年 | お互いの言葉や文化を尊重して多文化共生を考えよう —言葉や文化を尊重しながら“世界の私たち”として多文化共生社会を築こうとすることを講演や交流を通して考える機会とする | <ul style="list-style-type: none"> ・岡山県国際理解教育プランによるNGO岡山日本語センター（Uさん）との連携事業 ・世界各国の展示品を見て触れて多様性を実感する ・演題「お互いの言葉や文化を尊重して多文化共生を考えよう」で講演会 ・クラスごとに海外研修生（中国、バングラデシュ、ロシア、チュニジア）との交流会（質疑応答を中心） | 各国国旗 展示品（岡山日本語センターより貸出） パワーポイント 実施要項 |
| 他 全校 | 夢をつかむ法則 —アニヤンゴさんの講演会を通してケニアの文化に触れ、進路について考える | <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育事業の一環 ・ケニア・ルオ族の楽器ニヤティティの世界初女性奏者アニヤンゴ（Mさん）による演奏会 ・ケニアの自然や文化、現地での体験などについてスライドと講演会 | ケニア国旗 パワーポイント ニヤティティ（楽器） ワークシート |

この授業に注目！

① 眼目 ネパール展

新学期はじめに職員研修で、ネパールのことについて写真や動画を交えて報告した。多くの先生方から「興味深い」「おもしろい」などのご意見を頂き、生徒達にも自由に写真や動画を見てもうるために実施した。図書館では、現地で入手した書籍やお土産などを展示し、閲覧用にノートパソコンを置き、「学校」「食べ物」「人」「世界遺産」「日本」「風景」などのフォルダを自由に見られるようにした。

しかし、展示日数や来館者が限られていたため、本校の文化発表会の期間中およびその前後に、展示第2弾を実施した。カラー印刷した写真やJICA学校栄養保健プロジェクト資料、ネパール国

内地図、チベット仏教の鉢などを展示した。文化発表会などで来校された保護者の方からも声をかけていただいた。

生徒の反応

- From epal.Never seen such a thing like it. (ネパール出身の生徒)
- 牛車がかっこいい！乗ってみたい。
- ネパールの美しい景色がとても心に残る。
- 色々な人に会ったんですね。とても感動しました。
- 景色がきれい。縁が多いですね。
- ネパールに行きたくなった。



所感

生徒は休けい時間も忙しいので、より多くの生徒に見てもらうため、第二弾まで実施できたのはよかったです。ネパールティーの試飲も計画していたのだが、施設の利用条件およびその独特の味ゆえ試飲会を実施できなかったのが残念だった。見学時間を確保して、ワークシートにメモするなどのやり方ですればよかったです…現実的には厳しいですが…。

②限目 ネパールの彼らー日本の私たち

資料1 資料2 資料3

生徒は日本の現在における私たちの生活の視点でインタビューをしあった後、同じ項目を含む、ネパールの現在における彼らの回答を英語で読み解き、その感想を述べあつた。次に、前もってピックアップしたネパールの「学校」、「子ども達」に関連した写真をグループ毎に観察し、その写真から分かることや予想されることを出し合つた。集中して観察させるために1～2分程度で次の写真へと移り、最後に各写真やその写真に関連した情報を伝えた後、ほぼ同世代のネパール人プリンシーさん的一日や時間割を資料に、気づいたことをまとめた。



放課後の子守
教室からの風景
(グランドがない、密集)



空手道の演武
殺風景な教室、日本文化への興味



職員室の給水所
衛生環境、給水やタンク



→通学路、生徒募集の広告



ホームステイ先、台所は最上階→
家の手伝い

生徒の反応

- ・日本にいる僕たちとは似た考えもあったし、違った考えもあった。英語ができれば、いろんな話ができると思いました。話をしてみたいです。
- ・ネパールでは好きな教科やうれしい時と感じたとき、悲しいと感じたときが日本とは違っていて驚きました。国によって住み方や生活が違うとその国々での暮らしが変わり、同時に物事の考え方も変わるものではないかと思いました。
- ・ネパールと聞くと、とても貧しい人ばかりというイメージがあったのですが、子どもへの質問を見てとても優秀な人もいるんだなと分かりました。もっと他の国に興味が湧きました。
- ・日本とは違った生活をしていてすごく新鮮だった。何より、家の手伝いを朝からするなんて、すごいと思う。
- ・学校というものがとても大切なもんなんだなあと改めて思いました。
- ・…同じ年なのに、私たちとは全く違う生活をしている子もいるんだなと思いました。私たちの生活は幸せなんだ、と感じた。みんな真面目ですごいし、見習いたいと思った。
- ・日本は先進国で経済的にも安定しているし、不自由なこともありません。プリンシーさんは10歳なのにしっかりしていて、目標も高いです。日本人は進んでいるからこそ、忘れてしまったことがあるのかなと思いました。
- ・こんなに授業で英語を勉強しているということを知ってびっくりした。9時に寝て6時に起きているのがびっくりした。



③眼目 レヌカの学び

資料 4

ネパールで青年海外協力隊のご経験をお持ちの土橋泰子さんが教材化されたものを追実施させていただいた。ティカを模した色丸シールを額に貼り、いつもとは異なるグループで行った。

一個人である、ネパール人レヌカさんの感じたことが日本にいる時なのか、それともネパールにいる時なのか、他人で日本人である私たちが分別する過程で文化や価値観への偏った見方や思い込みに気づかせたかった。生徒は思ったよりも早くにグループ分けしたが、どの班も正解とはほど遠かった。そして、その理由を説明したところ、驚きや関心の声が上がった。

（カードの例）

- ・軽いカゼでも仕事は休みます。—軽いカゼなら仕事に行くわ。
- ・私は朝ご飯を食べないこともあるわ。
—私は朝ご飯は必ず食べるわ。
- ・子どもたちはよく遅刻をして来るわ。
—子どもたちはめったに遅刻しません。
- ・私の夢は歌手・ダンサーになることよ。
—私の夢は主婦になることなの。
- ・野菜や果物を買う時ときはよく選んで買うわ。



生徒の反応

- ・ネパールと日本の違いがよく分かった。レヌカさんが勘違いしている部分もあったと思う。
- ・軽い風邪でも仕事や学校を休むということにびっくりしました。日本では少しの風邪で休むということはあまりないので、ネパールの違いは大きい（？？）ということが分かりました。
- ・ネパールには給食がないということにびっくりした。
- ・一番驚いたのは「主婦になる」という夢についてです。日本は努力次第で何にでもなれるチャンスがあるので、いろんな大きい夢を持つんじゃないかなと思っていました。
- ・レヌカさんへ、日本とネパール、どっちが好きなのですか？日本にずっと住みたいと思いましたか？

所感

レヌカさんという一個人にとっての思いをグループ分けしたのだが、「ネパールでは」、「ネパール人は」という一般化した理解も多くみられたため、授業者が補足して説明した。

4眼目 世界がもし32人の村だったら

資料5

各クラス担任がファシリテーターとなり、「世界がもし100人の村だったら」のミニサイズ・ワークショップを行った。生徒たちは役割カードをもとに、世界の現状についてイメージを深めていろいろなことに気づけた。折しも、世界人口が70億人を突破した（推定）直後だったので、人口に関するクイズも盛り上がった。いろいろな挨拶を通して言語の多様さに気づき、ひもの内側に分かれることで人口密度を実感した。さらに、富の分配を菓子で行ったことで人々の欲深さを意識し、独占・分け合い・交渉の様子もはっきりと現れた。クラスの実情にあわせて、国に関係なく平等に分けたり（共産主義的）、担任が回収したり（独裁主義的）…と自由度を持たせた。



アジアでの富の分配は切実！？



アジアの人口密度を体感



ワークショップ後の振り返り

生徒の反応

- ・アフリカには本当に富がないと知り、悲しくなりました。また、日本が世界の中ではとても少

- 数だけど、発展していてなんだか、誇らしくなりました。
- ・日本はとても豊かな国だと改めて実感し、幸せ者だなと思いました。日々色々ともめている事がとても小さな事に思いました。
 - ・世界というのはとても大きいから、いつもはなんだかよく分からなければ、こうやってクラスにおきかえると分かりやすかった。もっと世界中に富が行き渡ればいいのにな、と思った。
 - ・地域によって富がない国があって、ちょっとどうなのかなと思いました。もう少し話し合って分け前は平等にするべきだと思います。
 - ・人は少ないので、食べ物は多いなどがあって、とても偏りがあるんだと思いました。アジアの人人がこんなに多いとは思いませんでした。

所 感

「日本人でよかった」、「日本に住んでいてよかった」などのコメントも見られ、本当の意味で国際社会について理解できるように仕組むには改善点が必要だと感じた。価値観や行動の面まで国際貢献に意識が向くには、まだまだ工夫が必要だと痛感した。

⑤ 眼目 学校に行けない世界の子どもたち

世界にはさまざまな問題があること、日本が国際貢献していることを統計や映像で知る。

JICAの活動資金は国民の税金であることから、私たち日本人は国際貢献に意義を見いだし、若者も多くの海外で生活しながら、国際貢献していることを説明した。

生徒の反応

- ・JICAの存在は知っていたけど、やっていることは知らなかった。すごくいいことをしていると思った。
- ・できるか分からぬけど、将来、国際ボランティアに参加してみたいです。日本ってすごいんだなって思った。
- ・この授業ではじめてJICAという組織を知った。日本とネパールは意外と共通点があったので驚いた。
- ・発展途上国で具体的に日本がどんな活動をしているのか知らなかつたけれど、ここまでいろんなことを協力しているとは思いませんでした。私も募金などできることをやっていきたいです。

所 感

将来的に海外で仕事がしたい、青年海外協力隊としてボランティアをしたいといった声が聞こえ、嬉しく思った。また、学校に行きたくても行けない様々な理由を考えてから、学校に行けることや学校で勉強できる事のありがたみを実感している生徒もいた。



全体を通しての成果と課題

ネパール、途上国、世界の諸問題などについて少しでも多くの生徒達、同僚達に伝え、関心を持つきっかけにしたい、という思いで限られた時間を活用して、浅学非才ながら努めてきた所存である。

成果としては、

- ① 図書館や学年廊下における特別展示、英語科授業、総合的な学習の時間、講演会・交流会など様々な機会を作ったこと
 - ② 生徒達が一連の国際教育プランに大変意欲的に取り組む様子から、さまざまな国や文化、国際的な諸問題について知るきっかけを持つことの大切さを再確認し、我々が今後の計画にいかせられること
 - ③ ネパールのことを知ってもらうことはもちろん、それをきっかけに世界や途上国のことなど視野を国際的に広げられることを狙いとして実施できたこと
 - ④ 英語科授業において、インドにおけるマザーテレサの奉仕活動（2年）、JICA青年海外協力隊員の活動（3年）と関連づけて実施することができたこと。
 - ⑤ 学年8クラスの各担任主導で授業ができるための教材準備、指導案検討などはとても大変だったが、手間をかけた分、学年団教員やその他教職員への啓発となり、今後も継続実施できるよう下準備ができたこと
- などが挙げられる。

一方、課題としては、

- ① 今後も継続実施されるよう、本校のESDカリキュラムなどに位置づけるために、教材と指導案に改善を加えていくこと
 - ② 本校の課題別調べ学習などを活用して、JICAをはじめさまざまな国際諸問題に取り組む団体との連携を図ったり、諸外国の学校、生徒達との交流事業を計画したりしていくこと
 - ③ より多くの生徒に興味・関心を抱かせる工夫として、オリジナル教材の作成
 - ④ 各担任がさらに自信をもって取り組めるよう、指導案および指導計画をもっと練ること
- などが挙げられる。

ワークショップや講演会、交流会などは本校の2年団はじめ多くの先生方、学校内外で国際教育をされている先輩方のご理解とご協力により成し得たことであります。感謝申し上げます。

帰国後実践をする中で、生徒達は外国の文化、世界の諸問題について旺盛な好奇心を持っていることが分かった。生徒の一人でも多くが海外に興味を持ち、国際貢献や外国の文化との交流に目を見開くきっかけになったと信じている。2011年夏、JICA中国教師海外研修団としてネパールを訪問させていただいたことに心より感謝し、今後もより多くの人にネパールのこと、世界の諸問題について考える機会、日本の国際貢献などを伝えられるよう、自分自身の勉強や現場での計画・実践を続けていこうと思います。

最後に、やはり日本はあまりに忙しくて、ゆとりがない！いずれの実践もつねに時間の制約や他の行事との重複を気にしながら、となってしまった…。

参考資料

【書籍】

- ・地球の歩き方編集室（2007）「地球の歩き方ネパール2007～2008」ダイアモンド・ビッグ社
- ・「レヌカの学び」（作・土橋泰子 開発教育協会2011）
- ・「ワークショップ版世界がもし100人の村だったら第3版」（開発教育協会2011）
- ・「クロスロード2008年5月号」（JICA 編集発行）
- ・「学校に行きたい！」（JICA 2010年）
- ・「学校に行けない世界の子どもたち」（JICA 地球ひろば2010）

【映像資料】

- ・JICA広報DVD

【インターネット】

- ・開発教育協会DEARホームページ

資料 1

| | |
|---|---|
| <p>Questionnaire Summer, 2011</p> <p>Student female Age (16)</p> <ol style="list-style-type: none"> What subject do you like? <i>Business</i> What do you enjoy doing at school? <i>learning something new</i> What do you usually do after school? <i>go get something to eat</i> What do you want to do recently? <i>Experiment with my interest in writing, photography and music.</i> In what situation do you feel happy? <i>When I gain success in whatever I am trying to do.</i> In what situation do you feel sad? <i>when I feel disappointed and useless.</i> How many members do you have in your family and how do you help / support your family? <i>I have 4 members in my family.</i> What is important for you? <i>To extend upto my full potential</i> What is your (future) dream? <i>A well rounded entrepreneur.</i> Do you feel you (are going to) take an important role in your community / society? <i>Yes</i> Do you know the place which was first damaged by the atomic bomb? <i>Hiroshima, Nagasaki</i> | <p>Questionnaire Summer, 2011</p> <p>Student female Age (16)</p> <ol style="list-style-type: none"> What subject do you like? <i>My favorite subject is Art and Design.</i> What do you enjoy doing at school? <i>I enjoy playing football at school.</i> What do you usually do after school? <i>I usually go out with my friends or hanggo back home.</i> What do you want to do recently? <i>I really want to improve my grades in school.</i> In what situation do you feel happy? <i>I feel happy when I have a free class.</i> In what situation do you feel sad? <i>When I get less marks in my exam, I feel sad.</i> How many members do you have in your family and how do you help / support your family? <i>There are four members in my family. I help my brother with his homework.</i> What is important for you? <i>My friends and family is very important for me.</i> What is your (future) dream? <i>My dream is to be an architect and own a bar.</i> Do you feel you (are going to) take an important role in your community / society? <i>Yes, I do feel I am going to take an important role in my community by being a role model.</i> Do you know the place which was first damaged by the atomic bomb? <i>Yes, it is Hiroshima.</i> |
|---|---|

資料 2

Interview about the daily life!

Class() No() NAME()

(1) 私たちの“日常”や“ふだん考えること”に目を向けてみましょう。ネパールではどうでしょうか？

| Questions | Your friend's answer1 | Your friend's answer2 | Student's answer in Nepal |
|---|-----------------------|-----------------------|---------------------------|
| 1. What subject do you like? | | | |
| 2. What do you enjoy doing at school? | | | |
| 3. What do you usually do after school? | | | |
| 4. When do you feel happy? | | | |
| 5. When do you feel sad? | | | |
| 6. What is important for you? | | | |
| 7. What is your dream? | | | |
| 8. What's famous for in Japan? | | | |

※「日本で生活する私たち」と「ネパールで生活する彼ら」の違う点は？同じ点は？そしてなぜだろう？

(2) ネパールの小学生、プリンシーさんの一日を見てみよう。



小野さんの教え子
プリンシー・スワールさん
(10歳) 小学5年生

今、一緒に住んでいる人は?
両親、お兄ちゃん
好きな授業は?
算数(理由:おもしろいから)
嫌いな授業は?
ない(理由:全部好きだから)
よくする遊びは?
チュンギ(緑ゴムをボールにして、けまりのよろとして遊ぶ)
将来、なりたいものは?
お医者さん(理由:病気の人をみてあげたいから)
尊敬する人は?
両親、お兄ちゃん、(近くに住んでいる)おじいちゃん、おばあちゃん(理由:私のことをかわいがってくれるし、大好きだから)
日本について知っていることは?
3年生の教科書に日本の話(「かさこじぞう」のこと)がのっていた。
新年にヨモリみたいなもの(もち)を食べる

プリンシーさんの一週間の時間割り

| 日曜日 | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|--------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 10:30~11:10 英語Ⅱ | 英語Ⅱ | 英語Ⅱ | 英語Ⅱ | 英語Ⅱ | 英語Ⅱ |
| 11:10~11:50 算数Ⅰ | 算数Ⅰ | 算数Ⅰ | 算数Ⅰ | 算数Ⅰ | 算数Ⅰ |
| 11:50~12:30 英語Ⅰ | 英語Ⅰ | 英語Ⅰ | 英語Ⅰ | 英語Ⅰ | 英語Ⅰ |
| 12:30~13:10 社会 | 社会 | 社会 | 社会 | 社会 | 社会 |
| 13:10~13:50 数数Ⅱ | 算数Ⅱ | 算数Ⅱ | 算数Ⅱ | 算数Ⅱ | 算数Ⅱ |
| 13:50~14:20 休み時間(昼食を食べる) | | | | | |
| 14:20~15:00 理科 | 理科 | 理科 | 理科 | 理科 | |
| 15:00~15:40 ネパール語 | ネパール語 | ネパール語 | ネパール語 | ネパール語 | ネパール語 |

*「英語Ⅰ」は聞き取り、会話、読み解き、「英語Ⅱ」は文法と英作文。また、「算数Ⅰ」はネパール数字の算数で、「算数Ⅱ」はアラビア数字の算数。

☆日本と違うところ、同じところ
に印をつけてみよう!

【振り返り】

○ネパールのことで“分かった”“知った”“気づいた”ことなどを書きましょう。

○感想

資料 3

英語科学習指導案

授業者：竹島 潤

1. 日時・場所 平成23年10月6日（木） 於：2年A組教室（対象は2年生35人）
2. 目的
 - ・ネパールの学校や子ども達の生活、考え方などを知り、日本の私たちとネパールの彼らの相違点について考える。
 - ・ネパールの写真を見たり話を聞いたりして、ネパールあるいは諸外国の文化への興味・関心を高める。
3. 準備
 - ・CDプレイヤー
 - ・CD “レッサンフィリリ”
 - ・ネパール国旗
 - ・トピ
 - ・インタビューシート+振り返りシート（B5表裏一枚）
 - ・ピクチャー資料（A4ラミ×12枚）
4. 展開

| 学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|--|
| (Greeting) (Introduction) ネパール国旗とJICAロゴを見せて英語で本時の題材を導入する。 (warm-up) 日常生活や将来の夢などについてのインタビューをしあう。レポートタイムをとって、共有しあう。その後、ネパールの同世代のほぼ同じインタビューへの回答を紹介する。 (Group work1: Analyzing questionnaire) 各グループでネパールの生徒が回答してくれたアンケート用紙（英語）を翻訳して、同じ項目の内容を理解する。どんな回答があったか、感想を共有しあう。 (Group work2: Photo Language) ネパールの学校や子ども達の生活などについて写真を見て、気がつくことをグループで出し合い、ポストイットに書いて貼っていく。前の班で出たもの以外で。各2分ほど。写真を回収して、実際について教える。 (Individual work) ネパールの小学生プリンシーさんの一日を通して、自分の生活と比較する。感想や意見を振り返りワークシートに記入する。 | 準備【3分】自分の日常について英語で回答させる。分からなければ日本語でよい。 活動【6分】男女各1名以上にインタビュー。 レポート【3分】男女各1名に指名・発表 日本で日常に行われていることや考えていることが世界の当たり前かどうか考えられる時間にする方向性を示す。 (5~6人のグループで) 【15分】ネパール生徒の答えを理解する。 【20分】各グループで2枚ずつ写真を見て「写真から分かる（推測される）こと」「あれ？と思うことなど」をポストイットに書いて写真の裏に貼って次の班へ（各班2分ずつで回す）。“レッサンフィリリ”をかけている間のみ観察させる。1周りした後、コメントの紹介とネパールの概況や学校教育制度について簡単に補足。 【2分】最も「～～」「なん！？」などと思う時間帯をマーキングさせる。 【1分】（個人で）日本語で書けばよい。感想を発表しあう（もしくは宿題）。 |

資料 4

第2学年 国際教育プラン第3次「レヌカの学び」

2011年11月4日（金）5限 各教室

- ・「レヌカの学び」を通して自分の中の「思い込み」に気づく。
- ・「レヌカの学び」は「自分の学び」として、異文化理解のカギは自分自身の内面にあると気づく。

準備物：色○シール、ワークシート、レヌカカード（18枚×6セット）、「カードの解説」

【本時案】

| 学習活動 | 指導上の留意点 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">・本時の授業はワークショップといって参加型の授業をするので、「指示をよく聞くこと」「発表の際にはみんなに伝えること」と大切にするよう確認する。 (アイスブレイキング)・生徒に目を閉じさせ、1人1人の額に色○シールを貼る。参加者は目を開けて<u>言葉を使わないで</u>自分と同じ色の仲間をさがす。色別に班隊形で着席し、「お願ひします」「ナマステ」などと挨拶し、「これまでに海外に行ったことがあるか」など話し合わせる。 | <p>【15分】</p> <ul style="list-style-type: none">・各色○が5～6人ずつになるようにする。作戦的な分け方も可能。・額の赤い印は「ティカ」といわれる、ネパールやインドの風習。 |
| <ul style="list-style-type: none">・(ワークショップ「レヌカの学び」)・本時はあるネパール人女性がネパールと日本で経験したことを題材に扱うことを告げ、レヌカさんの紹介をする（ワークシート配布する）。・各グループにレヌカカード（1セット18枚）を配布し、<u>文字が書いてある方を上にして並べる</u>。カードに書かれてある内容が「ネパールにいる時のレヌカ」か「日本にいる時のレヌカ」かという視点で、しっかり意見交換をして話し合って分けるように伝える。・9枚ずつにグループ分けできたら、話し合い終了。ワークシート（1）に記入させる。・カードを裏返して、正解か確認させる。・（1）で出た意見を班ごとに発表させる。・教師が「カードの説明」を参考に、レヌカの思いを代弁する。 (ふりかえり)・ワークシート（2）を書かせる。 ☆カードを振り分ける際の「思い込み」や「価値観」は何だったか。 ☆それらはいつ・どのようにできあがったものだろうか。・“ティカ”をワークシートに貼って提出させる。 | <p>【25分】</p> <ul style="list-style-type: none">・生徒ワークシートの裏を確認。・<u>カードは必ず文字が書いてある方のみを読んで考えさせる。</u>・特定の人が決めないよう、個々の意見を出して話し合うように再度助言する。・ここまででは裏の絵を見ない。・別紙「カードの説明」 |
| | <p>【10分】</p> |

資料 5

第2学年 国際教育プラン第4次 「世界がもし（　　）人の村だったら」

2011年11月4日（金）6限 各教室

- ・「世界がもし100人の村だったら」をクラスサイズで疑似体験することで、人口、言語、文化などの多様性と貧富の格差について理解する。
- ・現在の日本の私たちの状況について客観的に考える機会とする。

準備物：役割カード、大陸ひも、シガーフライ（富）、紙コップ（5）、役割カード一覧

【本時案】

| 学習活動 | 指導上の留意点 |
|--|--|
| <p>(アイスブレイキング)</p> <ul style="list-style-type: none">・人口に関するクイズをする。 ①現在、世界の人口は何億人？ ②1960年（約50年前）の世界の人口はどれくらい？ ア. 20億人 イ. 30億人 ウ. 40億人 ③日本の現在の人口はどれくらい？ ④2060年世界人口はどれくらい？ ア. 86億人 イ. 96億人 ウ. 106億人(ワークショップ) ・役割カードについて <u>☆他の人には見せない ☆自分は本時、その役割になりきる</u> ・1人1枚に役割カードを渡す。 ①カードの項目1を見て、男女別に分かれる。 ②項目6を見て、<u>自分のあいさつのみをしながら</u>、同じあいさつの国同士でかたまる。 ③項目4を見て、地域ごとに集まる。各グループにひもを渡し、その中に入らせる。 ・「シガーフライを“世界の富”とします。では、現在の世界では富はどのように分配されているのでしょうか？」 ・教師はシガーフライをあけて、<u>各大陸ごとの本数</u>を紙コップに入れて渡す。生徒の意見や感想をしっかり拾う。※<ul style="list-style-type: none">・アジアのうち、日本の配分は「こんにちは」と話す日本人に渡しましょう。・各大陸からのコメントを聞く。・“富”を分配するか、独り占めするか、権力者に委ねるか… 教師は生徒に価値観のゆさぶりをかける。(ふりかえり)<ul style="list-style-type: none">・本時の活動で印象的だったこと、感想などを発表させる。 | <p>※机は掃除前のように寄せておく。 ※生徒は手ぶらでよい。</p> <p>【5分強】</p> <ul style="list-style-type: none">・クイズへの解答の仕方は挙手、教室内移動などで。(解答) ①約70億人 ②イ ③約1億2500万人 ④イ・インドや中国では女性が男性よりもかなり少ないです。なぜでしょう？ (女性差別によりケアを十分されない、身売り…) <p>【35分】</p> <ul style="list-style-type: none">・英語やスペイン語は植民地政策で拡大。・世界には3000以上の言語がある。・あいさつのことばが同じでも、言語が異なることがある。・アジア、アフリカ、北米、南米、ヨーロッパ（オセアニアなし）・生徒人数により調整する。最後の番号カードで調整すればよい。・ひもは各大陸の面積比から長さを算出している。 <p>【10分弱】</p> |